

アーシャを応援するには…

ボランティアとして国内外の活動に参加する

国内での各種イベントをお手伝いいただける方を募集しています。
また、現地でもインターンを随時募集していますので、是非お問い合わせください。

フェアトレード商品を購入する

アーシャのオリジナルフェアトレード商品をご購入いただくと、売上げが現地の活動に還元されます。

アーシャの会員になる

アーシャの活動はJICAや助成団体、企業からの助成や皆様から頂く会費より運営しております。助成金は期限も用途も限られているため、アーシャの幅広い活動は皆様のご支援により成り立っております。
継続的な活動を行うためにも、会員へのご入会をお願いいたします。

最新情報はホームページ・Facebookをご覧ください。

アーシャ ホームページ

<http://ashaasia.org/>

Facebook

<http://www.facebook.com/asha.asia.page>

サムヒギンボトム農工科学大学

継続教育学部 (MSCNE) ホームページ (英語)

<http://mscne.org/>

<年会費>

○正会員 1口 ¥5,000/年
年1回の総会にご出席いただき、会の運営に直接携わっていただきます。

○賛助会員 1口 ¥3,000/年
遠方にお住いの方や社会貢献としての参加をご希望される方で、運営ではなく、資金面でご支援くださる方々が対象です。

○終身正会員 1口 ¥50,000
○終身賛助会員 1口 ¥30,000
○団体正会員 1口 ¥20,000/年
○団体賛助会員 1口 ¥10,000/年
(団体終身会員制度もございます)

<郵便振替口座>

口座番号：00160-0-315147
加入者名：アーシャニ
アジアの農民と歩む会



特定非営利活動法人
アーシャニアジアの農民と歩む会 事務局

〒329-2703
栃木県那須塩原市槻沢83-17
TEL・FAX：0287-47-7840
Email：info.jp@ashaasia.org

より持続可能に

より女性の参加を

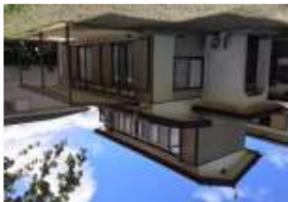
より子どもたちに教育と希望を



わたしたちはアジア農村が抱える問題を農村の人々とともに改善・解決する人材を育てています。

2003	自由学園那須農場にて発起人が集まり会の設立を計画
2004	アラバート農工科学大学 継続教育学部の支援を中心とした、アジア諸国の農村支援のため「アーシャ」の農民と歩む会」設立 (事務局：栃木県宇都宮市) 田村嘉慶が初代理事長に就任 プロジェクト総責任者：三浦照男がアラバート農工科学大学 継続教育学部 学部長に就任 アーシャ職員として日本人スタッフを現地に派遣開始 会報発行開始
2005~	2005年 日本人専門家、インターンを現地に派遣開始 フェアトレード商品開発・インターナショナル販売開始 入浴剤販売開始 インド・フロシエクト地へのスタッフインターン開始
2009	アラバート農工科学大学が「サムヒギンボトム農工科学大学」へ、継続教育学部が「アキナール」へと改称される 理事長 田村嘉慶退任、牧野一穂就任 事務局 大田原市に移転
2011	アキナールの持続可能な農業研修コースに日本人学生募集開始
2012	那須塩原市南郷屋に「アーシャ」の農民と歩む会 交流センター」開設
2013	事務局を那須塩原市南郷屋に移転し、交流センターと統合 JICA市谷ビルでセミナーを開催 インドの子どもの絵画展開催
2014	10周年記念イベントの開催 (セミナー、インドスタッフの日本招聘、料理ワークショップ等) インドの子どもの絵画展開催
2015	事務局・交流センターを那須塩原市槻沢に移転 理事長 牧野一穂退任、三浦孝子就任

2015年度に移転した当会事務局・交流センター外観



アーシャ前理事長
牧野一穂
(継続教育学部 初代学部長)

※カウソタールパートの名称が「アキナール」となった経緯について
当会前理事長である牧野一穂は、1965年、アラバート農工科学大学に継続教育学部を設立しました。その後、2009年にアラバート農工科学大学の名称を冠した「サムヒギンボトム農工科学大学」に変更された際、約50年に渡る農村開発の功績を称えられ、継続教育学部の名称が「アキナール」(Makino School of Continuing and Non-Formal Education: MSCNE)に変更されました。

当会は、「アジア諸国の農村住民に対して、地位の向上と自立を促進するために、人権、貧困、環境、福祉などに関する農村開発支援事業、及び災害、紛争などによる被災住民への緊急支援活動を行い、これによって人間の尊厳を尊重する社会の形成に寄与すること(定款より)」を目的に設立された、特定非営利活動法人です。
当会の活動地である北インド・アラバートでは、化学肥料や農薬の乱用により土壌や自然環境の悪化が進み、小規模な小作農民の生活水準が低迷し、農村における貧富の格差が拡大しています。また、女性や弱者への人権無視、根強が残るカーブの問題により、困難な生活を余儀なくされている人々が未だに多く存在します。このような農村住民への支援活動を行うため、当会は2004年に発足しました。「貧しい農村の人々の希望の光となるような活動を」との願いから、会の名称を「アーシャ(ヒンディー語で希望) = アシヤの農民と歩む会」と名付けました。
当会は、サムヒギンボトム農工科学大学 アキナールをカウソタールパートとして、環境保全に配慮した農村住民の生活向上、保健衛生環境改善、学校教育の普及、農村女性のエンパワーメント等の事業を実施、総合的な農村の開発を目指し、住民が自ら個々の問題を解決できるよう、特に人材の育成に力を入れて支援を行っています。



ア-シヤ=アジアの農民と歩む会

会員・支援者

活動参加・フェアトレード
商品の購入・資金援助

ア-シヤ

スタッフ・専門家派遣
人材育成・技術支援

インド
サムヒギンボトム農工科学大学
継続教育学部 (マキノスクール)

成果報告・現場での学びの提供



インドでの活動

小規模農民の自立を促す

農民の環境・健康・経済を守る ～持続的可能な有機農業の推進～
環境や健康に優しく、経済的にも自立できる農業技術の普及を目指し、課題別の短期セミナーも開催しています。

農民の相互扶助を促す

アラハバード有機農業組合 (AOAC) の運営支援
低所得者が多い農村住民が、健全でゆたかな暮らしを自分たちの手で実現できるよう、食料生産・加工・販売に総合的に携わる事の出来る組合の運営支援を行っています。組合では顔と顔のつながりを大切に、運営を担う人材の育成、組合員への有機農業の普及、商品開発、販売支援を行っています。また、組合に日本人インターンを派遣し、商品開発や日本語の消費者への対応を補助しています。



貧困家庭の子どもに教育を

教育で、子どもの未来を変える ～ア-シヤ学校～
学校に通えない子どもが多い農村で、学校運営の担い手や教師を育成し、生徒や家庭への就学の呼びかけ、特別教育活動 (運動会、教育キャンプ、学校祭など) の教師との共同開催など、僻地の学校の設立・運営支援を行っています。2014年3月現在、3校約750名の子ども達が学んでいます。

農村開発の現場を知る・学ぶ ～インターンの受け入れ・人材育成～

国際協力を志す若者を受け入れ、ともに生活し、事業を行う事で未来の草の根ワーカーを育成します。

農村の課題に挑戦する 農村住民のづくり

栄養不良の多い地域で母子のいのちを守る活動 ～母子保健改善事業～

農村に住む女性たちを「ヘルスポランテア」として育成し、農村の母親たちを対象に母乳育児支援や妊産婦と乳幼児の保健栄養改善プログラムを実施しています。農村の母親と子どもたちがより健康に生活するための活動を行っています。

保健や栄養の知識を学ぶ

今まで家庭や学校ではあまり教えられていなかった、少女たちに必要な保健や栄養の知識を身に付けてもらうため、ガールズキャンプ等を開催しています。



草の根で働く農村開発ワーカーの育成 ～9か月の持続可能な農業・農村開発コース～

インド、ミャンマー、ネパール、日本などの学生に、農村開発の現場で蓄積した持続可能な有機農業や農村開発を中心とした国際協力に必要な知識・スキル・心構えを、実習や講義、現場見学等を通して伝えています。多様な背景の人が集まる環境での生活を通して、草の根で活躍できる農村リーダーを育成しています。

農村女性に自信と職業を ～裁縫教室の運営～

女性差別の慣習で、社会参加できない女性達に裁縫技術を指導し、彼女たちがリーダーとなって次の女性に教えていく仕組みづくりを支援しています。より未来につながる形の支援活動を目指しています。

母と子の健康を推進する

生活向上のための農村リーダー育成



日本国内での活動

日本国内では現地と日本をつなぐ活動を行っています。事務局にて現地活動の事務サポートを行っているほか、農業の大切さや現地のプロジェクトを知って頂く為のセミナーや報告会を行っています。

スタディツアーの開催

現地でのプロジェクトや農村の現状を多くの方に知って頂く為にスタディツアーを開催しています。また、現地に直接訪問されるビジターの受け入れも行っています。



ツアー参加者の様子

国内でのセミナー開催

日本国内ではインドでの活動や有機農業、母子保健についてのセミナーを開催しています。2014年にはJICA地球ひろばにてセミナーを行いました。また、セミナーのご依頼も随時受け付けております。



2014年セミナーの様子

農業研修の受け入れ

現地インド人スタッフを日本に招き、農業研修や食品加工技術を学ぶ研修も行っていきます。

各種イベント参加・開催

栃木県内では近隣イベントへの参加やインドと地元の子どもの交流を促す絵画展を主催するなど、イベント開催にも力を入れています。

フェアトレード商品の販売

アラハバード有機農業組合 (AOAC) で生産されたオリジナルフェアトレード商品を日本国内でも販売しています。



インドハーブ入浴剤
ご注文の際は事務局にお問合せ下さい！



モリンガ粉末とヒマラヤ岩塩



日本国内での研修の様子



インドの子どもが描いた家族の絵

ア-シヤに関係する人たちの声

三浦照男 (インドプロジェクト総責任者・本会理事)



農村の問題と課題はもはや地域の問題ではありません。世界的規模で社会不安をあり、社会紛争の火種となりつつあります。日本やインドもその例外ではありません。一人一人がそれらの事柄に関心を抱き、解決に寄与することが望まれます。本会では特に、アジアの農村の人材育成に力を入れています。皆様のご支援、ご協力をお願いします。

サントシュ・クマール (継続教育学部農場マネージャー)

ア-シヤと仕事をするようになってから土を良くすることに重点を置いた有機農業を学びました。年々化学肥料や農薬の量を多くしなければならぬ慣行農法では、やがては農地は疲弊し、農家は大変です。アラハバードの農民や研修生に有機農業をさらに伝えていきたいと思っています。



アンジュ (アラハバード有機農業組合・食品加工リーダー)



言葉は直接通じませんでしたが、高丸さんや石原さん (派遣された食品加工専門家) が教えてくださった加工食品を作り続け、継続的に売ることができています。始めたころは自信がありませんでしたが、今は仲間と一緒に働き、責任をもって材料や加工室を管理しています。

田崎沙綾香 (持続可能な農業研修コース2012年度・卒業生)

大学を休学して飛び込んだインドで、素敵な仲間と囲まれ有機農業について一からじっくり学びました。文化も習慣も異なる研修生たちとの共同生活を通し、多くのことを学び、自分自身を成長させることができました。ここで学んだことを、次は私が沢山の人の人に伝え、誰かのためになれるような人材になりたいと思っています。

